



北海道新時代 #01

# 北海道価値創造 パートナーシップ会議 ～新たな北海道総合開発計画に向けて～

本誌の本年6月号にて御紹介<sup>\*</sup>したとおり、現在、国土交通省では、新たな北海道総合開発計画の策定作業を進めています。

この一環として、4月から5月にかけて、北海道内の四地域（苫小牧市、岩見沢市、網走市及び稚内市）において、「北海道価値創造パートナーシップ会議～新たな北海道総合開発計画に向けて～」(以下「本会議」という。)を開催いたしました。

本稿は、本会議の結果概要を御紹介するものです。

## 1 本会議開催の趣旨

新たな北海道総合開発計画の策定については、この1月に国土審議会（北海道開発分科会）に対して諮問され、現在、平成28年春頃を目途に新計画を閣議決定できるよう、必要な調査審議が進められています。

検討に際し、各地域の課題解決や活性化に御活躍の方々から御意見等をお伺いするため、3月8日に開催された「北海道価値創造パートナーシップ会議 in 札幌～新たな北海道総合開発計画に向けて～」をスタートとして、当該会議に引き続き、本会議を開催したものです。

## 2 各会場での意見交換の概要

出席者の方々から、「新たな北海道総合開発計画の策定に向けての主な視点・論点」（国土審議会北海道開発分科会計画部会第1回会合配付資料）にて掲げられた、「人が輝く地域社会」をテーマとして、①御自身が実践されている分野での活動や取組の御紹介をしていただくとともに、②日頃の活動を踏まえた御意見を述べていただきました。

本稿では、紙幅の関係上、各会場での意見交換に関連して設定されたサブテーマに即したものを中心に、御出席の皆様からの御意見の一部を掲載いたします。

国土交通省北海道局参事官  
国土交通省北海道開発局開発計画課

**開催概要**

**(1) テーマ**

「人が輝く地域社会 ～「世界水準の価値創造空間」の形成に向けた環境整備・対流促進」

**(2) 期日・サブテーマ**

- ① 苫小牧市：4月24日(金)開催《雇用の維持・創出》
- ② 岩見沢市：5月15日(金)開催  
《定住環境の整備・対流の促進》
- ③ 網走市：5月20日(水)開催《人材の育成・活用》
- ④ 稚内市：5月28日(木)開催  
《地域資源の活用・対流の促進》

**出席者**

(五十音順・敬称略)

**[苫小牧市]**

- 石井 宏和 neeth(株)代表取締役CEO
- 井田 芙美子 (株)いただきますカンパニー代表取締役
- 浦田 隆 (株)山口屋福太郎取締役常務・福太郎(株)小清水北陽工場長
- 近藤 和彦 トヨタ自動車北海道(株)取締役副社長
- 須賀 紀子 登別温泉郷滝乃家取締役女将・北海道女将の会会長
- 布村 重樹 函館がごめ連合代表
- 星川 光子 NPO法人いぶりたすけ愛理事長

**[岩見沢市]**

- 石渡 杏奈 いわみざわ公園バラ園バラ管理・色彩館サブマネージャー
- 奥田 知靖 国立大学法人北海道教育大学岩見沢校教育学部准教授
- 小西 泰子 豊正FAM協議会ふれあい室室長
- 坂本 純科 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト理事長
- 谷川 良一 NPO法人グラウンドワーク西神楽理事
- 横井 清 移住推進会議「移る夢深川」会長

**[網走市]**

- 有田 敏彦 国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター教授
- 上野 真司 NPO法人森のこだま代表・ランプの宿森つべつ支配人
- 黒瀧 秀久 学校法人東京農業大学生物産業学部学部長・オホーツク実学センター長
- 後藤 菜生子 (株)知床らうすリンクル代表取締役
- 新保 元康 札幌市立発寒西小学校校長
- 三木 亨 てしかがえこまち推進協議会UD部会長
- 道山 マミ 合同会社大地のりんご代表社員

**[稚内市]**

- 小池田 章 (株)フレイン・エナジー代表取締役
- 佐々木 政憲 稚内北星学園大学学長
- 田中 美智子 (株)丸夕田中青果統括本部長・2011年やん衆横丁11月の陣実行委員長
- 堂脇 聖美 餅café & stayわが家経営
- 西谷 榮治 前利尻町立博物館学芸課長
- 吉川 勝 (株)ホクユーストアー代表取締役

**(苫小牧市)**

- 「世界水準の価値創造空間」といっても、世界水準がどのようなものであるか知っていないと語ることはできない。グローバルマインドを身に付けていくこと等が必要。
- 地域では、育児の面で就業が難しいといった人が多い。いつ来ても、いつ帰ってもよいという「わがままパート」という仕組みを作ったところ、好評。
- 製造業の認知度が低く、人材確保に苦労している。働きやすい作業環境の創出等に取り組んでいる。
- 漁業者の高齢化が進んでいる。漁業が儲かり、若い人にとって魅力的な産業になる必要がある。連携して研究開発をしなければ、高付加価値化・差別化は難しい。
- 福祉関係の仕事でも担い手不足が課題。行政と地域住民が共に考えていくべき。
- 都市で働けない人が地域で起業できるほど新規創業は甘くはない。将来性があり、可能性がある人に、3年ぐらいしっかりと投資することが大事。
- 冬期に道外や海外からの観光客がレンタカーを使うが、雪道に慣れていない。安全な交通の確保のために工夫が必要ではないか。

**(岩見沢市)**

- 観光に関し、素晴らしいガーデンは各地に存在。魅力を発信してほしい。
- 農地拡大で生き残りを図らねばならず、若者は収益性の追求に追い込まれているのではないかと。自らが地域や農業に魅力を感じることで地域を守ることができる。
- いきなり生活をシフトするのは難しく、お試しや練習のできる環境や期間が必要。Iターンだけでなく半町民的に通ってくる人も加えれば、中間的なグラデーションのあるコミュニティも考えられる。
- 子育て環境が重要だが、子どもの遊び場が少なく、なり、トップレベルの能力の低下、糖尿病発症とい

う問題が生じる。冬でも屋外で活動できるような遊びの場をつくる仕掛けをどう考えていくかが大事。

- 空いている家は多いが、農家には家を売る感覚がない。誰かに貸してあげても良いという声が出ない。本州の方には空き家でも面倒で貸さない人もいる。
- 冬季集住が他地域で展開されないのは、本当に困っていないからではないか。最近是一年集住したいという要望があり、実験的に取り組んでいる。資金をどう捻出するかが課題。

### (網走市)

- 現在の小学校では、雪や道をはじめ、北海道の魅力や歴史、地理等が十分教えられておらず、「北海道人」としての意識が育っていない。「北海道学」を教育できるカリキュラムや教材の開発が望まれる。
- 社会人を育成する人材育成事業や6次産業化に対し、政府支援の充実、小さなビジネスの資金繰りからサポートするような仕組みづくりが望まれる。
- 大学では学生も教員も外からの視点や人脈を持っており、もっと活用してほしい。特に学生は、限られたエリアで日常生活を済ませがちであり、地域づくりに積極的に関わる機会、場づくりが望まれる。
- これまで、地域資源の資源化・商品化から受入れ・おもてなしに至るまで、大手観光業者が行ってきた面が強いが、今後、地域の人々が地域に還元していく視点で取り組んでいくことが必要。
- 農業生産者と物流事業者や商社等で持っている情報にギャップがあり、農産物が一年中あると思われる。アナログな情報発信も重要。
- ユニバーサルデザインの視点から見ると、空港を一步出た途端に移動が大変になるのが現状。誰が来ても楽しいまちづくりが必要。

### (稚内市)

- 将来の北海道を見据えると、今は挑戦すべき時期。多くの人々に、サハリン航路を活用して挑戦して

いてほしい。

- 若い世代の育成は重要であるが、高齢者から学ぶ場面が増えれば、高齢者自身の生きがいにつながり、ひいては、北海道全体が元気になるのではないか。
- 昨今は、第一次産業もICT化が進んでおり、ICT関係技術を身につけた人材の需要が増えている。そのため、稚内北星学園大学では地域のICTを支える人材づくりを目標として取り組んでいる。
- アトピーの症状に悩まされ、自分を表現できなかった患者を中心に全国から湯治客が集まり、交流人口が増えてきている。しかしながら、交流の場が不足しており、交流の場の確保には、既存ストックの活用等、行政の支援も必要。
- 利尻島は島内外との数多くの交流の歴史がある。その歴史を学び、歴史を資源として、現在にどのようにつなげていくかが重要。
- 昔は厄介者でしかなかった強風が、風力発電により資源に変わった。資源がありながら、使っていない、気付いていないということもあるのではないか。

### おわりに

本稿では、紙幅の関係上、一部の御意見のみを掲載いたしました。本会議では、出席者の皆様から多数の有益な御意見を賜りました。今後、これらの御意見も踏まえながら、夏頃を目途に新たな北海道総合開発計画の中間整理を取りまとめる予定です。

最後になりますが、御多忙中、熱心に議論いただいた出席者の皆様をはじめとする関係者各位に対し、改めて厚く御礼申し上げます。

※ 国土交通省北海道局参事官・国土交通省北海道開発局開発計画課「北海道価値創造パートナーシップ会議 in 札幌～新たな北海道総合開発計画に向けて～」開発こうほうNo.623,pp.1～5 (2015年)  
<http://www.hkk.or.jp/kouhou/back2015.html>

(補足) 本会議での配付資料をはじめ、新たな北海道総合開発計画の策定に向けた取組に係る資料等については、以下の国土交通省HPをご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/hkb/hkb\\_tk7\\_000059.html](http://www.mlit.go.jp/hkb/hkb_tk7_000059.html)